

Memento

第2号

京都部落問題研究資料センター通信

発行人 灘本昌久
 発行所 京都部落問題研究資料センター
 京都市北区小山下総町5-1
 京都府部落解放センター3階
 TEL・FAX 075-415-1032
 郵便振替 00930-4-16404
<http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

部落解放運動と研究はどのような関係にあるべきか

灘本昌久

1. 戦前における運動と研究の関係

部落問題の研究にかかわってきて、早いもので、20年以上が経過している。高校生のときに部落解放研究会をつくって部落問題の勉強と活動をした時代を全部入れると、30年近くになる。この年月をふりかえってみたとき、部落問題を研究していく上での肝心かなめのことからは何かと問われたら、「運動と研究の関係」が最も重要である、と答えたい。この関係がうまくいっていないと、部落問題解決にとって、さまざまな支障をきたすことになる。

本題の「運動と研究の関係」にはいる前に、第二次大戦後の部落解放運動と研究の関係を見たとき、まず問題とすべきことは国の側に部落問題の研究がほとんどないということである。こういって、不思議に思われるかもしれないが、戦前の部落問題の研究は、政府・官僚側の独壇場であった。具体的には、政府の外郭団体として中央融和事業協会が設けられ（1925年創立。戦時下の1941年同和奉公会に解体吸収される）、研究誌『融和事業研究』が季刊で、『融和事業年鑑』が毎年発行されていた。この中央融和事業協会の中心的人物は山本政夫であった。彼は、広島出身で、水平社創立のメンバーである米田富たちが、その秀才ぶりにほれ込んで運動に引き入れようとしたほどの人物であった。その山本が、戦前の融和事業の理論的支柱として協会をひっぱっていたのである。また、融和事業研究の中味も、たとえば部落の経済振興にとって、在来の部落産業を保護育成するのがいいのか、あるいは将来性の薄くなった部落産業から将来性のある分野へ業種転換するべきかなど、たいへん実践的で真摯な

議論がなされている（京都部落史研究所月報『こべる』83・84号参照）。また、水平社との人的つながりも、水平社の左派活動家で、1933年の高松事件のさなかに日本共産党に入党して地下に潜った北原泰作の潜伏先が山本の家であったことに見られるように、その表面的な対立とは裏腹に、かなり太いパイプでつながっていたのである（北原泰作『賤民の後裔』）。蛇足ながら、水平社の活動資金自体もリベラル派で部落問題に熱心であった有馬頼寧伯爵など、「支配階級」から多く供給されており、融和運動と水平社の関係は普通考えられているよりは、はるかに二人三脚にちかい。（『部落解放運動と米田富』、朝治武「創立期全国水平社と南梅吉」、『京都部落史研究所報』10・11・12号、1999年などを参照）。

それにひきかえ、戦後の政府や官僚は、あまり部落問題の研究には熱心でなく、部落問題研究所や部落解放研究所など、運動系の研究機関に圧倒されっぱなしで現在にいたっている。同和事業の打ち切り方針を出すにあたって、地域改善対策研究所を急遽立ち上げて、同和事業の総括作業を行ったのが唯一の例外で、それもちょっとした研究会のレベルを出ないものである。もし、戦前と同じとまでいなくても、せめて運動系の研究者と部落問題解決の方策をめぐって、互角に論戦できるだけの理論的そなえと意見の表明があれば、運動に過剰に引きづられることもなかっただろうし、逆に、同和事業廃止の方針を出すにしても、うまく軟着陸の方針がだせていただろうに。しっかりした研究を抜きに運動との綱引きばかりしているの、将来展望の定かでない不時着のような方針しか出せないのである。戦後の同和事業は、1960年代の高度経済成長の

果実を分配したので、財政規模でいえば、戦前の融和事業より格段に大きい、金を出した割には国の主体性が欠けていた。

2. 戦後一時期の自由な研究・言論活動

以上は、統治責任グループ側の、部落問題研究の不在に関してであるが、本稿で検討したい本筋の問題は、運動側での研究の問題である。結論をさきばしていえば、運動にたいする研究（あるいは運動団体にたいする研究者の）の自立性・自律性が、戦後半世紀の間にどんどん失われ、研究が見た目の隆盛に反して、その内実において空洞化しているのではなからうか。師岡佑行氏の『戦後部落解放論争史』（全5巻）を読んで、つくづくそう思う。

たとえば、同書第2巻第5章「同和教育をめぐる批判と反批判、社会調査についての論争」（251ページ以下）には次のような下りがある。

1955年に大阪の中之島公会堂で部落解放同盟は第10回大会（厳密には、この時部落解放全国委員会から部落解放同盟に名称変更）を開催し、運動方針案のなかに「子供の教育を守る活動方針」の一節をもうけて、運動としてはじめてまとまった形で教育に関する道筋を明らかにした。この内容に関する詳細は、同論文を直接参照されたいが、興味深いのは、部落解放同盟と表裏一体の関係にあった部落問題研究所（のちに解放同盟と共産党が対立した1965年以降は、同研究所は共産党色を強め、解放同盟とたもとを分かつ）の奈良本辰也所長（1913年生まれ）が、同研究所発行の雑誌『部落』に掲載した「1955年の回顧と展望」において、この活動方針は「学校の教育を信頼していないという態度が強すぎる」と批判したことである。現在、そんなことがあるだろうか。部落解放同盟の方針を、友好関係にある研究機関の長が頭から批判するなどということが。

また、こんなこともあった。当時、学生の部落問題研究会などを中心に、部落の調査がさかんに行なわれ、同時に、調査が運動の利害とどう関係するかという議論がたたかわされた。そこでは、概して運動に密着したかたちでの即効性がもとめられがちであった。それにたいして、社会学者福武直（1917年生まれ）は雑誌『部落』1956年3月号に「部落調査をめぐる問題点 これまでの成果を読んでの感想的覚書」を書いて、研究が運動の短期的、直接的利害から距離をおくことの重要性を説いた。「新しい学問の創造を目ざして調査活動にたずさわった諸君に敬意を払いながら、私は、ブルジョア的な学問のための学問、アカデミズムの学

問の中から役に立つ方法をもっともっと摂取して調査されることを期待したい」「調査が役立つかどうかは、巨視的に考えなければなりません。微視的には、調査した部落の解放運動に妨げとなることもありうるからです。しかもそれが、巨視的には解放運動全般に役立ち、したがって短期的には、調査部落の解放を阻害しても、長期的にみるとその部落の解放にも役立つということも考えなければなりません。」そして、「勇ましいスローガンなら調査しなくてもできるでしょう」とまで痛烈な表現を使って、単刀直入な批判と問題提起をしたのである。40歳前の若さながら、福武直の農村社会学といえば、丸山真男の政治学、大塚久雄の経済学とならぶ、東大の顔である。その福武が、解放運動にたいして、主体的なものの考え方で発言しているのは、実にすがすがしいではないか。

それにひきかえ、ここ30年ほどの、部落問題研究の現状はどうだろう。私がみたところ、研究そのものは、さまざまな研究誌が出され、研究会・研究集会と銘打たれた会合が頻繁に開催されているが、その多くは、暗黙の了解として部落解放同盟の方針の枠内、運動の許容範囲内にとどまっている。たしかに有名な大先生が運動と関係をもつことはあっても、それは運動がその名声を借りたいために招待しているのであって、研究者が研究者生命にかけて物申すというシーンは、あまり記憶にない。むしろ運動の都合にあわせて、調査・研究の結論が偏向している例には、枚挙にいとまがないのである。たとえば、ある地方では、一企業者あたりの年間取引高を調査したところ、部落の平均が一般の平均を上回ったのに、「誤解を生じる」（＝同和事業の縮小につながる）という理由で、調査報告書から消えてしまった等々。

3. 研究者の自立性の喪失はなぜ起こったか

さきに述べた、戦後すぐの部落問題研究の自由闊達な雰囲気は、社会学や教育学だけではない。日本中世史研究においても、林屋辰三郎（1914年生まれ）を中心とする『部落史に関する総合的研究』が1956年から刊行されていったし、社会心理学の部落問題への応用も試みられたりした。

しかし、1960年代にはいると、そうした1950年代の雰囲気は失われてしまった。その主たる原因は、共産党系の人たちによる左からの批判で新しい試みが潰されていった、というのが師岡氏の分析で、私もおおむねそのように了解している（共産党系の方々には異論があるだろうが、その犯人探しは本稿の論旨とずれるのでここでは割愛し、必要であれば稿をあらためて検

討したい)。そして、非左翼的言説が一掃されたのにち、今度は1965年の同和対策審議会答申の評価をめくり運動が分裂し、解放同盟から共産党系の人たちが排除されたことにより、共産党的左翼言辭が一掃された。こうして、戦後の百家争鳴から主流派・反主流派（＝共産党系）体制、そしてさらに、総主流派体制へと、意見の幅が狭まっていった。

1960年代後半からは、あらたに新左翼系の活動家や研究者が部落解放運動に大挙参入したが、そのことは、研究の幅を広げたというよりは、研究の運動にたいする直接的な実用性を求める、あるいは研究者が運動の直接的代弁をする傾向を強めたように思う（その下手人の1人が私であって、本人がいうのだから間違いはない）。

最後の、新左翼系（全共闘系、非日本共産党系）左翼は、かなり素朴な大衆信仰が強く、被差別民衆がいうことは間違いはない、それを理解できないのは、頭にブルジョアの曇りがあるからだ、というような発想が強い。これは、既成の学問体系を徹底的に批判してきた全共闘運動的観念論のしからしむるところであるが、ともかく、この一群の人たちは学問の独自性・自立性には懐疑的な面々であって、福武のような超然たる態度は期待することができなかった。

こうした、研究者の意見の幅の狭まりと同時に、部落解放同盟の側でも、共産党との分裂以降、差別が差別でないかの判定は、部落民の唯一の組織たる解放同盟の専決事項である、というような態度が強まって、反対意見への不寛容さが目立ってしまい、全体として自由な研究・討論の雰囲気はしぼんでしまった、と私は理解している。

4. あるがままの大衆の要求は何をもたらすか

しかし、研究者が運動団体の意を体して、その方針の枠内でしか発言しなくなってしまったらどうなるだろうか。

ひとつには、あるがままの被差別感情・被害感情にもとづく要望が、そのまま運動の要求となってしまう、長期的な展望を持たないことである。たとえば、部落のあばら家を除却して同和向け公営住宅を建てる場合、部落大衆の素朴な感情は、時として不必要な高層化や大規模化を望むことがある。これは、今まで、老朽化した低層住宅で肩身の狭い思いをしてきた反動で、高い建物に住んでまわりを見下ろしたら、さぞ気持ちいいだろうという感情に根ざしている。あるいは、部落民同士でも、一戸建ての門構えの立派さを競って地区全体としては異様な景観をつくりだしてしまうこと

がある。それらは、心情としては理解できるし、またそこに至った歴史的経緯を顧みれば、胸のつまる思いでもあるが、心情は心情、長期的展望とは別物である。たとえば、私が古くから付き合いのある部落は、京都市内の風致地区に位置しているために、同和住宅の高層化ができなかったが、そのために、今ではたいへん落ち着いた町になっており、高層化した同和地区がその後荒廃してスラム化しているのとは対照的である。こうしたことが、怪我の功名としてしかできないということでは困る。あくまで、研究者の専門的意見が大衆の支持を得るかたちで、長期的町づくりがめざれなければならない。その時に、研究者が運動団体の顔色をうかがって、真に主張しなければならないことに躊躇するようでは、部落解放の長期的利害はそこなわれる。

また、あるがままの被差別感情が、必要な飛躍を妨げることもある。1980年代の半ばに京都府南部で大雨による災害があり、救援活動にいったことがあるが、そのとき、急傾斜地にあった部落をみて、驚き呆れた。どう考えても、危険極まりない斜面に部落が位置しているのに、同和事業による移転をせず、斜面にコンクリートをはって、一時しのぎの対策に終始している。現地の行政に詳しい人に聞くと、地元の素朴な要求に行政が場当たりの的に応じていったために、そうなったということであった。その人の反省の弁によれば、無理をしてでも移転すべきであったということだ。小さな部落に20数億もの資金を投入して、危険地帯に部落大衆を縛り付けているのでは、本末転倒といわねばならない。もちろん、いろいろな経過や条件が重なってそうなってしまったのだらうけれども、長期的展望を欠いた同和事業や解放運動の問題性をしめしている。こうした間違いを防ぐためにも、専門家は運動に対して独自の立場から支援し、大衆や運動の陥りがちな短期的利害を越えて発言しなくてはならない。

さらに、研究者が運動べったりの態度をとると、運動団体が立場上いいにくいことを代わって外から代弁してくれる人がいなくなってしまい、運動団体自体に不都合なことも生じる。

たとえば、共産党と解放同盟が激しく対立する中で起こった、矢田事件（1969年）や八鹿事件（1974年）は、衝突の原因を共産党側がつくり、解放同盟側に一定の正当性があったとはいえ、抗議の手段や方法において行き過ぎがあったことは明らかだろう。それは、私が思っているだけでなく、多くの解放同盟幹部が私的にはそういう感想をもらすのである。ただ、多数の

逮捕者や懲戒処分者をだしている手前、また運動方針にまで自分たちの正当性を盛り込んでいる手前、なかなか部分的な自己批判さえやりにくいことは、人情としてはよくわかる。であればこそ、なおさら研究者（もちろん一般市民でもいいのだが）による善意ある問題点の指摘や、ときには厳しい批判を外からすることも大事なことでなかろうか。しかし、今のところそうした声はなく、いろいろな反省点や路線変更が組織外に明確に語られることはすくなく、内情を知らない多くの人にとっては、解放同盟の徹底糾弾方針は以前とまったく変わらないような印象を与えているのである。1990年代のなかばころまで、解放同盟は自分への批判者に対して不寛容な態度をとっていたが、この数年、それが画期的に改善されたにもかかわらず、それが外部に十分に理解されておらず、いまだに多くの人が「ものいえば、唇寒し」という態度をとっているのは、残念なことである。

5. 多くの選択肢と切り切った議論が必要

現在、部落解放同盟は、部落解放基本法獲得を最大の課題として取り組んでいる。この方針に対して、運動が組織内を一本にまとめようとするのは、いたしかたないとして、研究者の側が、部落解放基本法を検討の対象としていないのはどういうわけだろう。研究者の多数が反対意見をもって、運動に敵対せよとはいわないが、もうすこし他の意見・主張があってもよさそうなものではないか。本当に、大部分の研究者は、同対審・特別措置法闘争の単純延長線上に部落解放運動の将来を展望できているのであろうか。すなわち部落における生活上の困難はすべて部落差別に起因しており、その解決はあげて行政の責任であり、また他の社会的弱者の救済よりも部落は優先して救われなければならない。

そういう考え方もあるとはおもいますが、別の考え方も選択肢としては提出すべきだろう。現に、ほんの一時であるが、部落解放同盟は、社会的公正確保法のような、もう少し救済対象を広げた法案の成立に動いたことがある。どうして、運動が出すまえに、そういう選択肢を研究者が用意し、自分の研究者としての主張として世に問わないのか。まるで、基本法以外に同和行政のありかたがないような状況は、研究者の怠慢であるし、部落解放運動の発展のためにも、不幸なことである。

運動団体が、自分たちの企画したことにそった意見をもつ研究者をあつめて、プロジェクトをもつことは

自然であるし、必要なことではあるが、その枠内に研究がとどまっていたは不都合である。現在の、解放同盟の方針にそぐわない範囲まで、研究者の意見の幅は必要だ。でなければ、運動はどんどん狭い範囲の意見に閉じ込められていく。

研究者は、同和事業のありかたや糾弾闘争のありかた、文学と実践の関係など、あらゆる論点において運動の公式見解をほみでて研究をすすめ、意見を表明していくべきである。

6. 研究における政治の過剰

もうひとつ、付け加えるなら、解放同盟にたいする主な批判者が、長らく共産党系の人々に限られていたことも、不幸なことだった。何か解放同盟と違うことをいえば、それは共産党の意見と同じである、という風にしかとられず、解放同盟に賛成か、共産党に賛成かという立場しかありえないかのような磁場がつねに作用していた。私も、解放同盟と友好的あるいは表裏一体の関係でありがなら、運動の主張にそぐわない意見をたびたび述べてきているので、つねに、運動に批判的なけしからぬ意見の持ち主という陰口をたたかれてきた。そして、しばしば「灘本さんの意見は共産党とはどちらがうのですか？」という質問をうけることがしばしばであった。もちろん、こういう疑問をいただくことはいけないこととはいえませんが、解放同盟に賛成か、そうでなければ共産党の意見であるという二極分解の状況というのは、このましいことではない、まして共産党系の研究者と解放同盟系の研究者が、運動の政治的対立を直接研究にもちこんで水と油のようにふるまうのは、コップの中の嵐に安住する態度である。こういうことを同和問題の世界の外から見ると、常にどちらかに忠誠をちかわされる近寄りがない世界に映るだろう。現に、そうして部落問題にたいして、悪意からではなく、敬して遠ざくという態度をとっている人を多く知っている。

私は、京都部落問題研究資料センターは、京都部落史研究所時代の遺産を継承して多くの市民に部落問題の情報を提供していくのを基本的な仕事と考えているが、同時に、多様性を喪失し、必要な問題提起をできなかつた、部落問題研究、差別問題研究の枠組みに対して、積極・果敢な問題提起を行っていきたい。それは、既存の枠組みとは少なからぬ軋轢を生じることと思うが、部落問題解決の長期的利益につながるものと信じている。会員諸氏のご理解をお願いする次第である。

最近こんな映画を観ました

前川 修

関本郁夫監督『残侠』（東映株式会社，1999年2月公開）

知人から「七条署事件」が出てくる映画があることを聞いて、おもわず「へー」と「エッ」が混じったような声を発してしまった。『残侠』と題したビデオを手渡されて、なるほどと思った。函越利一会津小鉄総裁の半生を描いた山平重樹著『残侠』（双葉社刊，1992年2月）を原作に製作された映画であることがわかったからである。

七条署事件というのは、敗戦から半年もたない1946年1月24日に、京都駅前にあった七条警察署で朝鮮人・中国人とヤクザの間でおきた乱闘事件のことである。1月19日夜、駅内にあった大日本朝鮮人連盟京都本部出張所と旅日京都華僑連合会出張所の看板が何者かに持ち去られた。警察のしわざとみて、両所の代表40名が24日に七条署におもむき、抗議をおこなったが、小寺署長は関知しないとつばねた。小寺は身の危険を感じて非常ベルを鳴らし、これを合図に応援のため待機していたヤクザがかけつけ、朝鮮人・中国人の間で乱闘となった。双方負傷者を出し一旦は引き上げたものの、急を聞いて朝鮮人・中国人が集まったため再び乱闘がおこり、占領軍のMPが出動しピストルを威嚇射撃し騒ぎを鎮圧した。日本人1人、朝鮮人4人あるいは2人の死者を出し、負傷者は多数を数えた。事件の背景には、ヤミ市の利権をめぐった朝鮮人とヤクザの対立があり、戦後の混沌とした時代を象徴する事件であった。『戦後京の二十年』（夕刊京都新聞社刊，1966年5月）には「これを機にヤミ市でのヤクザの勢力が強まり『警察に恩を売った』と公言するものまで出た」と記されている。

映画『残侠』のストーリーは、原作に忠実だとは決していえないがなかなかすごい映画である。内容は高嶋政宏が扮する岩城辰五郎（主人公の名前も改められている）が戦中・戦後の混乱期に、岩城組を率いて京都の任侠界で活躍するという単純なものだが、戦後は岩城組と朝鮮連盟との抗争が大きな軸となっている。

このような流れの中で朝鮮連盟や七条署事件も描かれるので、朝鮮人の多くは悪役である。朝鮮連盟を迎え撃つために警察署前に待機する岩城たちの前に、一台のトラックが急停車する。降り立った男たちは「同和聯盟」と書かれた鉢巻をしている。同和聯盟会長ヤマガタと名乗る初老の男が、応援に駆けつけたことを告げる。啓発映画以外で、部落が堂々と登場するのには、正直いって驚かされた。さらに、ヤクザにあこがれる部落の青年がグー握り（握り箸）で箸を持っているのには、関心してしまった。また、志賀勝扮する悪役の朝鮮人は「オマエラニポンジンガ、チョセンジンニナシテキタ」と片言の日本語しか話せないのに、中条きよし扮する朝鮮人はバイリンガルなのは笑える。出演者は高嶋政宏をはじめとして、中井貴一・ビートたけし・松方弘樹等々豪華な面々なのはヤクザ映画では常識なのだろうか。実は、私はヤクザ映画が大の苦手である。啓発映画と同じぐらいに嫌いなジャンルに入る。このため、映画『残侠』のキャストが豪華なのか普通なのかまったくわからない。

この原稿を書きながら思い出したことがある。数年前にヤクザ映画の助監督をしていると名乗る男性が京都部落史研究所（当京都部落問題研究資料センターの前身）を訪ねてきた。用件は今度製作する映画で、戦後すぐに部落の人が集会に参加する場面が出てくるのだが、そのときの出で立ちを知りたいというものだった。

岩城組の応援に駆けつけた同和聯盟の面々

た。普段、研究所に史料を見にくるのは研究者と学生しかいなかったため、かなり戸惑ったのを覚えている研究所が所蔵している写真の中から戦後の集会を撮影したものをいくつか見せ、小一時間対応した。今、考えるとこの助監督は『残侠』のスタッフであり、部落の人が集会に参加するというのは、七条署事件のことだったのだ。そういえば、「同和聯盟」の出で立ちが全国行進隊の出で立ちに似ているではないか。私は気がつかない内に、『残侠』の製作に協力していたのだ。最初から「七条署事件について調べている」と言ってくれば、もう少し違う史料を提供できたのにと悔やまれるが、私の嫌いなヤクザ映画だから「まあいいか」と思っている。

私が、その助監督に「ヤクザ映画でも部落民が登場するのは珍しいことでしょ」と訊くと、彼は「イヤ、結構ありますよ」と簡単に言ってのけた。部落問題はタブーであり、啓発映画以外には部落や部落民が登場

することはなかった私に、耳を疑った。ヤクザ映画の中で、朝鮮人がしばしば登場することは知っていたが、部落はないだろうと思っていた。以前テレビで放送された飯村雅彦監督『蚩』(東映株式会社, 1988年公開)を観たことがあるが、布施博が演じるヤクザが靴職人の息子という設定だったが、直接的に部落出身であると表現することはなかったからだ。助監督が言った「結構ありますよ」の真偽を確かめずに今日までできてしまった。もしかするとヤクザ映画では、『残侠』のように部落と部落民が結構堂々と登場しているのではないだろうか。仮にそうだとすれば、ヤクザ映画は部落問題のタブーを乗り越えている画期的な存在だといえる。このことに詳しい方がおられたら、お教え願いたい。

なお、原作『残侠』は当京都部落問題研究資料センターの図書として所蔵していますし、映画『残侠』はほとんどのレンタルビデオ店に置いています。

収 集 図 書 (2000年7月～9月受入)

商いの場と社会 シリーズ近世の身分的周縁4(吉田伸之編, 吉川弘文館刊, 2000.9): 2,800円 《社会の異端、「商い」を考える 松前問屋・材木屋・薬種中買・皮商人・古着商人・床店商人・飴売商人・在方市》

アメリカのユダヤ人迫害史(佐藤唯行著, 集英社刊, 2000.8): 680円 《ユダヤ人はなぜ差別されたのか。反ユダヤ主義の成り立ちと、差別と闘った人々の想いを説き起こす》

醫家人名辭書(竹岡友三編, 南江堂京都支店刊, 1931.9)

石原都知事「三国人」発言の何が問題なのか(内海愛子, 高橋哲哉, 徐京植編, 影書房刊, 2000.6): 1,800円

一揆と周縁 民衆運動史 近世から近代へ1(保坂智編, 青木書店, 2000.2): 3,500円 《斎藤洋一「『えた』身分と一揆」所収》

井手町の近代 と文化財(井手町史編集委員会編, 京都府綴喜郡井手町役場刊, 1999.11)

命(柳美里著, 小学館刊, 2000.7): 1,238円

いま、なぜ部落解放基本法なのか(部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会編刊, 1986.2)

大阪人権博物館年報 9(大阪人権博物館刊, 2000.7)

沖縄占領米軍犯罪事件帳 RYUKYUAN ぶーたぎな サナガベツチの時代(天願盛夫編, ぐしかわ文具店刊, 1999.4): 1,300円 《強姦・銃殺・刺殺・放火・焼死・爆死・暴行・轢殺・圧死・毒死・飛行機事故 あんなこと、こんなことがあって平和(いま)がある》

沖縄返還とは何だったのか 日米戦後交渉史の中で(我部政明著, 日本放送出版協会刊, 2000.6): 970円 《続々と公開になる米政府公文書によって明らかになる1972年沖縄返還の裏面》

お骨のゆくえ 火葬大国ニッポンの技術(横田睦著, 平凡社刊, 2000.7): 700円 《日本の葬送文化を支えてきた弔いのテクニックのすべて》

回想 日本の放浪芸 小沢昭一さんと探索した日々(市川捷護著, 平凡社刊, 2000.6): 700円 《「小沢昭一のドキュメント日本の放浪芸」(LP22枚)の制作者がCD復活を機に全国を駆け巡った探索の旅を回想》

共生教育のすすめ 新しい時代の教育課題に向けて(仲田直著, 佛教大学通信教育部刊, 2000.9): 2,600円 《同

和教育から共生教育へ》

京都(林屋辰三郎著,岩波書店刊,1962.5)

京都の部落をみる 1984年実態調査を分析して(部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会編刊,1986.2)

京都部落史研究所紀要 12(京都部落史研究所編刊,2000.6):1,000円

京の民間医療信仰 安産から長寿まで(奥沢康正著,思文閣出版刊,1991.4)

記録史料と日本近世社会 1997~1999年度千葉大学大学院社会文化科学研究科プロジェクト研究成果報告書(菅原憲二編,千葉大学大学院社会文化科学研究科刊,2000.5)

《横山陽子「近世会津地域における賤民の存在形態 エタ、イタカを中心に」所収》

近代移行期の民衆像 民衆運動史 近世から近代へ4(新井勝紘編,青木書店刊,2000.7):3,500円 《朝治武「維新时期における部落の意識と行動」所収》

芸能・文化の世界 シリーズ近世の身分的周縁2(横田冬彦編,吉川弘文館刊,2000.7):2,900円 《楽人・能役者・書物師・伊勢大神楽・鉢叩・寺中・絵師・国学者》

言語の思想 国家と民族のことば(田中克彦著,日本放送出版協会刊,1975.12)

ことばと社会(鈴木孝夫著,中央公論社刊,1975.4)

これからの在日朝鮮人教育'95(全国在日朝鮮人教育研究協議会編刊,1995.8):1,500円

これからの在日朝鮮人教育'96(全国在日朝鮮人教育研究協議会編刊,1996.8):1,800円

これからの在日外国人教育'97(全国在日朝鮮人教育研究協議会編刊,1997.8):1,500円

これからの在日外国人教育'98(全国在日朝鮮人教育研究協議会編刊,1998.8):1,500円

これからの在日外国人教育'99(全国在日朝鮮人(外国人)教育研究協議会編刊,1999.8):1,500円

これからの在日外国人教育2000(全国在日朝鮮人(外国人)教育研究協議会編刊,2000.8):1,500円

サラム宣言 指紋押捺拒否裁判意見陳述(梁泰昊著,神戸学生青年センター出版部刊,1987.7)

「三国人」発言と在日外国人 石原都知事発言が意味するもの(内海愛子,岡本雅亨,木元茂夫,佐藤信行,中島真一郎著,明石書店刊,2000.6):1,000円

史学雑誌 第109編第5号(史学会編,山川出版社刊,2000.5):3,030円

滋賀の部落の仕事と生活 総務庁調査の分析から(石元清英著,反差別国際連帯解放研究所しが刊,1996.12):500円

親しむ博物館づくり事業 報告書(大阪人権博物館編刊,

2000.3)

支配をささえる人々 シリーズ近世の身分的周縁5(久留島浩編,吉川弘文館刊,2000.10):2,800円 《権力と社会の狭間を生きる 町人代官・在地代官・庄屋・牧士・代官手代・八王子千人同心・御用宿》

社会意識と世界像 民衆運動史 近世から近代へ2(岩田浩太郎編,青木書店刊,1999.11):3,500円

社会科学大事典 1~20(社会科学大事典編集委員会編,鹿島研究所出版会刊,1968.4~1971.8)

社会と秩序 民衆運動史 近世から近代へ3(藪田貫編,青木書店刊,2000.3):3,600円

食肉文献目録 独立刊行物篇(奈良県食肉産業・文化研究会編,奈良人権・部落解放研究所刊,2000.5)《収録文献数約600件》

職人・親方・仲間 シリーズ近世の身分的周縁3(塚田孝編,吉川弘文館刊,2000.8):2,800円 《鋳物師・杵工・金掘り・浦請負人・中間・相撲年寄・非人》

すーinフリーサイズ通信(すー著,[フリーサイズ通信]刊,2000.7):1,000円

図説・朝鮮通信使の旅(辛基秀,仲尾宏編著,明石書店刊,2000.8):1,300円

世界史のなかの民衆運動 民衆運動史 近世から近代へ5(深谷克己編,青木書店刊,2000.8):3,500円

世界人権問題研究センター年報 1999年度(世界人権問題研究センター編刊,2000.6)

全朝教通信合本(第53号~第67号)(全国在日朝鮮人(外国人)教育研究協議会編刊,2000.-):2,000円

それぞれの明治維新 変革期の生き方(佐々木克編,吉川弘文館刊,2000.8):7,000円 《辻ミチ子「近衛家老女・村岡 女の幕末社会史」所収》

高橋竹山に聴く 津軽から世界へ(佐藤貞樹著,集英社刊,2000.8):660円

田辺同和史 第1巻通史編(田辺同和史編さん委員会編,田辺市刊,2000.3)

弾左衛門体制と頭支配(全国部落史研究交流会編刊,2000.9)

憑きもの持ち迷信 その歴史的考察(速水保孝著,明石書店刊,1999.10):2,200円

閉された言語・日本語の世界(鈴木孝夫著,新潮社刊,1975.3)

【同和教育振興会】第 期研究会 研究報告集(同和教育振興会編刊,2000.3)

長岡の語り部 二十一世紀への伝承(長岡の語り部編,長岡京市教育委員会刊,2000.1)

中上健次と熊野(柄谷行人,渡部直己編,太田出版刊,2

000.6) : 2,200円

第27回奈良県部落解放研究集会【議案書】（部落解放同盟奈良県連合会，NPOならん人権情報センター刊，2000.9）

日蘭交流400周年記念稀覯書展示会展示目録（京都外国語大学付属図書館編刊，2000.6）

橋向区の歴史（建造物の調査）（京北町，京北町教育委員会刊，[2000.8]）

犯罪被害者支援 アメリカ最前線の支援システム（新恵里著，径書房刊，2000.8）：2,500円 《少年犯罪・児童虐待・レイプ・強盗・殺人...犯罪大国アメリカに学ぶ！》

被差別の連帯を求めて（部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会編刊，1991.3）

被差別部落への5通の手紙（三浦耕吉郎著，反差別国際連帯解放研究所しが刊，1997.3）：500円

ヒストリア 第171号（大阪歴史学会編刊，2000.9）《吉村智博「都市部落における学校経営と財政 栄小学校と尿処理問題」所収》：1,000円

不平等社会日本 さよなら総中流（佐藤俊樹著，中央公論新社刊，2000.6）：660円 《日本は努力すればナントカなる社会か？努力してもしかたない社会か？》

部落解放運動の課題と基本法 21世紀にむけて水平社宣言を（部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会編刊，1986.5）

部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会第16回大会議案書（部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会刊，2000.8）

部落解放基本法の制定をめざして 批判や疑問にこたえる（部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会編刊，1986.5）

部落解放行政推進部落解放基本法制定要求第4期第12波中央行動資料（部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会編刊，1999.10）

部落解放第30回京都府女性集会討議資料（部落解放同盟京都府連合会女性部執行委員会編，部落解放同盟京都府

連合会刊，2000.8）

部落解放研究第14回京都府集会討議資料（部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会刊，2000.6）

部落解放・人権研究所第52回総会議案書（部落解放・人権研究所編刊，2000.6）

部落解放同盟京都府連合会辰巳支部第24回定期大会議案書（部落解放同盟京都府連合会辰巳支部編刊，2000.7）

部落差別 ここにも 出発は「現実」の直視から（部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会編刊，1998.10）：600円 《中学教頭の借金差別事件・インターネットで「差別」を扇動他》

第17回部落問題全国交流会【資料】 人間と差別をめぐって（[部落問題全国交流会事務局]刊，2000.9）

ふれあいリパティ 第5号（リパティおおさかガイドボランティアの会刊，2000.7）

新版 平和博物館・戦争資料館ガイドブック（歴史教育者協議会編，青木書店刊，2000.7）：2,400円

北摂の炎 未来へ 高槻富田の部落史（富田の部落史編集委員会編刊，1999.12）：2,000円

都の大殉教関係資料 元和5年（京都キリシタン研究会編刊，1987.5）

明治のセクシュアリティ 差別の心性史（三橋修著，日本エディタースクール出版部刊，1999.2）：1,900円

明治の村絵図 古絵図集成 1（野洲町町史編さん室編，野洲町刊，1986.3）

ヤマトウのなかの沖縄（大阪人権博物館編刊，2000.9）

大和郡山藩郷鑑（奈良県立同和問題関係史料センター編，奈良県教育委員会刊，2000.3）

よみがえる鉄道黄金時代 宇治を走った汽車・電車（宇治市歴史資料館編刊，2000.9）

歴史民俗学 17号 特集 浮浪・漂泊・ホームレス（歴史民俗学研究会編，批評社刊，2000.7）：1,500円

ワーキング・ナウ 第3集（「青年のしごと」調査会編刊，1987.12）

収集逐次刊行物目次（2000年7月～9月受入）

あすばる 第3号（甲賀郡人権センター刊，2000.9）

ちがうことこそええこっちゃ！ 共生の社会をめざして
牧口一二

「関妃」を知っていますか 吉田賢作

きまぐれ書評

『われ生きたり』（金嬉老著）/ 『忍者の謎』（戸部

新十郎著）

アフーマティブやまぐち21 第4号（アフーマティブやまぐち21刊行委員会刊，1999.7）

キリスト教と障害者 杉山博昭

栗山孝庵の観臟と被差別民衆の腑分け 忍克比古

教育実践 こんにちは赤ちゃん 男子ばかりの出産育児

学習 山崎優子

ウイングスきょうと 第39号(京都市女性協会刊, 2000.8)

図書情報室新着案内

『これであなたも起業家 チャイルドケアの仕事』
(東潔・山内英子著) / 『出会った相手が変わった! ?』
(宮本博文著) / 『老いて、住む マンション暮らし
奮闘記』(門野晴子著) / 『バイバイわたしのおう
ち』(ジャクリーン・ウィルソン作, ニック・シャラッ
ト絵)

ウイングスきょうと 第40号(京都市女性協会刊, 2000.10)

図書情報室新着案内

『こんな女性たちがいた!』(にんげん史研究会編)
/ 『女ひとりノンキで贅沢な毎日』(白石公子著) /
『スウェーデンの性と性教育 1990-2000』(ピヤネー
ル多美子著) / 『ルネサンスに生きた女性たち』(佐
藤幸三著)

おおいた部落解放史 第20号(大分県部落史研究会刊, 2000.8)

府内藩における頭支配の諸相 木本邦治

古文書講座 身分落としし刑 二題 長谷川富美子

秦源次郎の墓石調査 淵雅純

部落解放学習の取り組み 被差別身分の形成過程の歴史
大分県立中津北高等学校二学年部

部落解放史授業の実践 山崎克友

本校での部落史学習の取り組み 大木裕治

社会「同和」教育の課題 「人権教育のための国連十年」
と同和問題 末松訓八

大阪の部落史通信 22(大阪の部落史委員会刊, 2000.6)

三新法期の農村部落 「南王子村文書」をてがかりに
吉村智博

『新修泉佐野市史』第13巻絵図地図編の発刊によせて
近藤孝敏

史料紹介 西中島村の町制施行に伴う諸問題 大阪市公文
書館所蔵文書から 久保在久

争点 身分論の二分法は有効か 寺木伸明 『近世身分と被
差別民の諸相 部落史の見直し の途上から』を讀
む 片岡智

解放教育 392(解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2000.8): 680円

特集 平和と共生の文化創造 新たな平和教育を求めて

平和博物館で平和の文化をつくる 村上登司文 / アメ
リカの人権教育を歩く 林伸一 / 韓国の教職員との交
流を通して 山下弘巳 / 危機に立つ子どもたちの人権
入管行政のはざまであえぐ子どもたち 林二郎 / 中

学生の平和国際交流 「大阪友好の翼」のとりくみ
山口成幸 / 小学一年生が学ぶ 戦争の悲惨 「せん
そうのはなし」の授業実践から 藤岡賢二 / 子らと創
る平和学習 日中平和副読本「よりよい明日へ」の実
践を通して 遠藤行博 / わたしたちの平和・みんなの
平和 総合学習のとりくみを通して 西淡路小学校

書評 『ふだんの授業からつくる総合学習 園田流教師ka
業のたのしみ方』(園田雅春著) 長尾彰夫

記者OBの視点 六人焼殺は死刑以外にない!と思うが...

溝上瑛

解放教育おりおりの断章2 卒業論文に同和教育を選ぶ
川向秀武

戦後子ども会 覚えがき5 中村拓三

歴史認識を問い直すために22 大阪の部落史 中尾健次

解放教育 393(解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2000.9): 680円

特集 「小1プロブレム」に挑戦する 教育連携でめざす
もの

「小1プロブレム」を乗り越える 高田一宏 / 育ちをつ
なくために 幼稚園を開くとりくみ 辻本由美子 /
「今どきの一年生」を受けとめる 積田洋一 / かつら
ぎフォーラムと個人的おもい 保・幼・小の連携から
木下陽一 / 合い言葉は、子育てにつよい街づくり
子育てハンドブックづくり運動 加藤拓 / 「学び」と
「暮らし」と「遊び」をつなぐことから 保育所・幼
稚園文化と小学校文化の段差縮小を 新保真紀子

資料 学級経営をめぐる問題の現状とその対応(抄) 関
係者間の信頼と連携による魅力ある学級づくり 学級経営
研究会

記者OBの視点 滝川事件・安保闘争を新世紀に語り継ぐ
溝上瑛

書評 『大阪発・解放教育の展望』(部落解放・人権研
究所編) 志水宏吉

戦後子ども会 覚えがき6 中村拓三

解放教育おりおりの断章3 多くの人に支えられながら、
同和教育へ 川向秀武

解放教育 394(解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2000.10): 680円

特集 人権総合学習のすすめ方

人権総合学習の問題点 長尾彰夫 / 皮革の文化を彫る
福井淳 / ごみはおもしろい 橋本恵子 / 人権総合学習
と新しい部落問題学習のすすめ方 大阪府同教 / 見て、
聞いて、感じて 多奈川小学校 / 差別は許さない 城
南水平社 城南中学校 / 総合学習で何をめざすか 平野
智之, 山口裕子 / 人権総合学習をより豊かにするため

の五つの提言 森実

より高く世界に鳴り響く日を 金時鐘

第27回にんげん実践研究会記念講演 「差異を認めあう」
そんな文化を広めたい ハンセン病隔離の50年 金泰九

世界を読む・世界を感じる 異文化の風に乗っ
て1 異文化を知る・感じる 前平泰志

記者OBの視点 解説記事の盗用と編集局長の交代 溝上瑛
解放教育ありおりの断章4 東日本の同和教育実践との出
会い 川向秀武

書評 『部落問題のパラダイム転換』（野口道彦著）八
木正

解放研究 第13号/明日を拓く 第33号（東日本部落解放
研究所刊，2000.3）：2,000円

正月・八朔における草履・箒進上について 坂井康人
浅草の被差別部落とキリスト教 19世紀末、日本聖公会
の活動 友寄景方

嘉永4年の「ヒューマンライツ」 近世被差別部落の歴
史像をめぐって 吉田勉

三河国長史一同弾左衛門支配入り嘆願書 藤井寿一

書評 『藤村の「破戒」のモデル大江磯吉とその時代』
（東栄蔵著）武藤啓司

「徳川成憲百箇条」の一ヶ条 「四民之外穢多嘔嚼瞽男
盲女...」を考える 藤沢靖介

月刊解放の道 198号（全国部落解放運動連合会刊，2000.
7）：350円

全解連の存在意義を全市民へ 今、元気にイキイキと活動
する備前市協議会 長田悟

地域住民との共同の取り組み 前進の基礎は支部会議の定
例化 中野慎一

同和行政終結に向けた運動をいっそう広げるために 長野
県部落問題研究会

同和経営指導員問題の住民監査請求結果について 山本良
人

月刊解放の道 199号（全国部落解放運動連合会刊，2000.
8）：350円

和同教解散の意義と今後の闘い 駒井俊英

広島県における「同和教育」をめぐる過去と現在 とく
に県立高校の学校現場を中心に 名越弘文

部落問題をめぐる当面の情勢と学校教育上の課題につい
て 大同啓五

資料 人権擁護推進審議会第41回会議議事要旨

月刊解放の道 200号（全国部落解放運動連合会刊，2000.
9）：350円

「同和教育タブー」を打ち破って 動き出した徳島の教
職員たち 桑原真治

広島県における「同和教育」をめぐる過去と現在 とく
に県立高校の学校現場を中心に（中）名越弘文
兵庫県人権施策推進会議「懇話会」に対する提言 兵庫県
部落解放運動連合会

資料 人権擁護推進審議会第42～第44回会議議事要旨

架橋 3号（鳥取市人権情報センター刊，2000.7）

鳥取市同和问题企業連絡会10周年記念座談会

部落史研究会活動について 霜村新

在日外国人問題を考える

三国人発言と在日外国人問題の現状と課題 金泰鎮 /

鳥取県東部・在日外国人教育研究会に集って 中尾聡

かわとはきもの 112（東京都立皮革技術センター台東
支所刊，2000.6）

はきもの・ノート67 浅沓と出頭沓 市田京子

靴の中の足 石塚忠雄

シリーズ子ども靴について5 大野貞枝

平成11年度東京都皮革技術委託研究報告 足に合った履き

やすい革靴の製作とその検証について 株式会社かがみ

靴の歴史散歩57 稲川實

季節よめぐれ 第152号（京都解放教育研究会刊，2000.9）

「渋染一揆」再考 多様な部落史像を求めて 藤田孝志

季節よめぐれ 第153号（京都解放教育研究会刊，2000.10）

善隣から「征韓」への道 仲尾宏

紹介 『同性愛者として coming outの軌跡』（高取昌二
著）

グローブ 22（世界人権問題研究センター刊，2000.7）

追悼 竹本正幸先生

人権文化の創造 上田正昭

人権尊重の学習 松山義則

「鑑真号物語」 山本壮太

生涯学習と人権 高桑三男

「国連・人権便り」14 安藤仁介

ジェンダーでよむ女性の歴史6 妻と夫の役割分担 田端
泰子

消えた集落 山本尚友

神戸港の強制連行調査 飛田雄一

輝く女性たち11 錦林識字学級 西本美笑子さん 井上久美
子さん 福田雅子

荊冠旗 1095（部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊，
2000.6.26）

映画 「インサイダー」（マイケル・マン監督）小山帥
人

紹介

『黄砂の楽土』（佐高信著）/ 『北朝鮮原論』（鈴木
邦男，井上周八，重村智計共著）

荊冠旗 1096 (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2000.7.10)

映画「尚美/蜜代」(金秀吉監督) 金秀吉

荊冠旗 1097 (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2000.7.24)

新刊紹介

『日本は頭から腐る』(佐高信著) / 『アメリカの創価学会』(フィリップ・ハモンド他著) / 『野望としての教養』(浅羽通明著)

荊冠旗 1098 (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2000.8.7)

新刊紹介

『こころの天気図』(五木寛之著) / 『お笑い創価学会 信じる者は救われない』(佐高信, テリー伊藤著)

荊冠旗 1099 (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2000.8.21)

新刊紹介 『帝銀事件の全貌と平沢貞通』(遠藤誠著)

藝能史研究 150 (藝能史研究会刊, 2000.7)

書評 『芸能の文明開化』(倉田喜弘著) 橋本今祐

紹介

『A KYOGEN COMPANION』(Don Kenny著) / 『摂北岩田家のあゆみ 本文編 史料編』(竹下喜久男, 井出努編) / 『神社祭礼図の研究』(國學院大學神道資料館編)

研究所通信 263 (部落解放・人権研究所刊, 2000.7) : 100円

読んでみたい議論してみたい文献 『学校を基地に お父さんの まちづくり 元気コミュニティ! 秋津』(岸裕司著)

研究所通信 264 (部落解放・人権研究所刊, 2000.8) : 100円

読んでみたい議論してみたい文献 「自治体における政策評価の現状と課題」他(大阪市政調査会『市政研究』127号)

研究所通信 265 (部落解放・人権研究所刊, 2000.9) : 100円

読んでみたい議論してみたい文献

「周縁から中心へ ある被差別部落における女性たちの住環境整備運動をめぐって」(『大阪市立大学同和問題研究紀要』第22号) / 「特集/解放運動の中の女性」(『ひょうご部落解放』93号, 兵庫部落解放研究所刊)

こべる 88 (こべる刊行会刊, 2000.7) : 300円

部落問題と貧困 山城弘敬

「人物評価」をめぐって 南梅吉、あれこれ 熊谷亨

こべる 89 (こべる刊行会刊, 2000.8) : 300円

インタビュー 中村勉さんに聞く 文化活動の視点と方法
野球をとおして考える 聞き手澤信広

こべる 90 (こべる刊行会刊, 2000.9) : 300円

いま始まった私自身の再生 すみだいくこ

こべる 91 (こべる刊行会刊, 2000.10) : 300円

解放から融和へ 灘本昌久

広島県高等学校教職員組合執行委員 西中幸子氏の講演を聴いて 住田一郎

広報誌リパティ 10号 (大阪人権博物館刊, 2000.7)

資料紹介

「講話発行前の米軍人、軍属の不法行為による人身損害の補償について(陳情)」(沖縄県祖国復帰協議会刊, 1970.5) / 『沖縄占領米軍犯罪事件帳』(天願盛夫編, 1999.4)

佐賀部落解放研究所紀要 VOL. 17 (佐賀部落解放研究所刊, 2000.3)

全水九州連合会の活動家・藤原権太郎をめぐって 附・南部露庵の紹介 首藤卓茂

部落史年表 享保21年・元文元年(1736)から元文6年(1741)まで 中村久子

史料紹介 唐津領岸田家文書「物成取立帳」 浦川和紀子

差別とたたかう文化 18 (「差別とたたかう文化」刊行会刊, 2000.9) : 400円

座談会 現在の被差別部落と人間を語る 山口公博・善野【ろう】・寺下真治・村田恭雄・溝上瑛・高地耀子

沖縄平和祈念資料館問題(下) 師岡佑行

新石垣空港との出会い4 宇井純

東アジアと日本の文化交流2 藤田友治

狭山差別裁判 319号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2000.7) : 300円

特集 5.23石川一雄不当逮捕37か年糾弾闘争

新証拠解説シリーズ1 齋藤第二鑑定

改めて寺尾判決の責任を問う80 佐藤一

まんが狭山事件34 崩れた警察鑑定 勝又進

BOOK 『隼までとどけ七通の手紙』(片山徒有著)

狭山差別裁判 320号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2000.8) : 300円

再審棄却1か年糾弾! 中央集会講演 「いのちの優しさ」

灰谷健次郎

大野晋さんを囲む会

石川一雄さん各地を訴える

新証拠解説シリーズ2 齋藤第二鑑定2

改めて寺尾判決の責任を問う81 佐藤一

まんが狭山事件35 最高裁にせまる 勝又進

BOOK 『愉快な裁判官』(寺西和史著)

狭山差別裁判 321号（部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊，2000.9）：300円

特集 異議審の現段階と証拠開示

権利としての証拠開示を実現する 山上益朗 / 解説 証拠開示の経過と現状

石川一雄さん各地を訴える

改めて寺尾判決の責任を問う82 佐藤一

まんが狭山事件36 血痕はなかった 勝又進

VIDEO 「アミティ・魂と出会う旅」（アミティ招へい実行委員会有志制作）

月刊滋賀の部落 309号（滋賀県同和問題研究所刊，2000.7）：400円

法失効後に、なぜ残る同和行政 東川嘉一

同和行政「終結」の枕崎市（上） 植山光朗

どこへ行く人権啓発3 川辺勉

民主的な地域づくりに向けて地域福祉の課題を探る2 安達信男

いま、なぜ「人権教育推進」なのか その主体は誰か2

木村光夫

連載 就職差別との闘い その4 柿元清

月刊滋賀の部落 310号（滋賀県同和問題研究所刊，2000.8）：400円

青年からみた今日の同和問題 東茂洋さんに聞く

どこへ行く人権啓発4 川辺勉

民主的な地域づくりに向けて地域福祉の課題を探る3 安達信男

いま、なぜ「人権教育推進」なのか その主体は誰か3

木村光夫

連載 就職差別との闘い その5 柿元清

同和行政「終結」の枕崎市（下） 植山光朗

月刊滋賀の部落 311号（滋賀県同和問題研究所刊，2000.9）：400円

青年からみた今日の同和問題（パート2） ある家庭での父と娘の会話から

滋同教高校連絡協議会の現在 對月慈照

どこへ行く人権啓発5 川辺勉

民主的な地域づくりに向けて地域福祉の課題を探る4 安達信男

いま、なぜ「人権教育推進」なのか その主体は誰か4

木村光夫

連載 就職差別との闘い その6 柿元清

しこく部落史 第2号（四国部落史研究協議会刊，2000.8）：1,000円

シンポジウム報告 新たな地域の部落史像を求めて 芸能文化の交流・連帯をとおして

エビス舞の背後にあるもの 水本正人

「木偶まわし」の聖と賤 阿波からの流れを受けて 五藤孝人

水平社運動と融和運動の交差 高知県差別撤廃期成同盟の場合 吉田文茂

融和教育の考察 徳島県の取り組みを通して 武知忠義

香川の融和教育再考 山下隆章

四国地方の部落史に関する新刊紹介

『人権かくとくの歩み 土佐藩の民衆支配』（高知県部落史研究会刊） / 『記念誌（第2編 香川県被差別部落史通史）』（全国人権・同和教育研究大会香川県実行委員会編） / 『部落史 研究報告集 第1～3集』（八幡浜部落史研究会刊） / 『徳島県同和対策推進会30年の歩み』（徳島県同和対策推進会刊） 三好昭一郎

愛媛の部落史関係書籍 水本正人

史料センター事業ニュース 第6号（奈良県立同和問題関係史料センター刊，2000.3）

戦後奈良県の同和教育の歴史を語る貴重な史料群 西口敏夫・佐々木一行両先生の文庫が完成

研究あれこれ 躍り出た被差別民 天正17年7月、奈良町の風流 藤田和義

人権教育 第12号（人権教育研究所編，明治図書出版刊）：760円

特集 総合学習で学校が羽ばたくために

座談会 総合学習が学校を変える 箕面市萱野小学校 人権学習を核とした「総合的な学習」の試み 他者を鏡とする体験をとおして 大阪市立市岡小学校 国際人権法と私たちの相互関係 米田眞澄 書評

『ふだんの授業からつくる総合学習』（園田雅春著） / 『会議の技法 チームワークがひらく発想の新次元』（吉田新一郎著） / 『「空虚な自己」の時代』（景山任佐著） / 『同和教育への招待 人権教育をひらく』（中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実著）

人権と平和 ふくやま 第7号（福山市人権平和資料館刊，2000.8）

自分史の沖縄 城間和行

近世の音楽教授 葛原勾当をとおして 佐藤一夫

神村尋常小学校「沿革誌」と部落問題 割石忠典

企画展解説 語やびら沖縄 沖縄の歴史と文化 五十五年目のオキナワ

信州農村開発史研究所報 第73号（信州農村開発史研究所刊，2000.7）

田畑野荒らしをめぐる入れ札 佐藤敬子

身同 同和推進本部紀要 第20号(真宗大谷派同和推進本部編, 真宗大谷派宗務所刊, 2000.6): 1,000円

小特集 真宗と解放運動の根

靖国を通した解放運動の課題 和田稔 / 近世部落における真宗信仰の諸相 山本尚友

被差別部落民衆が担任した役儀・役柄一考 仲林弘次

部落の宗祖・親鸞 信楽弘道

書評 『太鼓職人』(三宅都子著) 雨森慶為

高木顕明を復権するとはどのようなことなのか 訓覇浩

すいへい・東京 東京部落解放研究所紀要 第14号(東京部落解放研究所刊, 2000.6): 952円

公正な採用選考をどのように実施するか 竹村毅

日本アイビー社による差別身元調査事件 部落解放同盟東京都連合会労働対策部

差別脅迫ハガキ事件の犯人判明と今後の課題 部落解放同盟東京都連人権対策部

月刊ステイグマ 第58号(千葉県人権啓発センター刊, 2000.7): 500円

特集「同和教育」は今

「同和教育」をすべての教育の原点に 鎌田行平 / 部落のこどもたちと同和教育 印旛同研のめざすもの 安部康弘・丸山いづみ・奈良崎俊一 / この町から出たいと思ったけれど 部落研3年目のY君と出会う 友兼善治 / A君と私の4年間と、私自身を振り返って 篠崎剛 / 同和教育をふりかえって 藤島高 / 座談会「青年達は今」 / 進路保障の現場で感じていること 進路保障の観点から 佐藤博士

世界人権宣言大阪連絡会議ニュース 215(世界人権宣言大阪連絡会議刊, 2000.7)

本の紹介

『予防外交』(吉川元編) / 『「三国人」発言と在日外国人 石原知事発言が意味するもの』(内海愛子ほか著) / 『石原都知事の「三国人」発言の何が問題なのか』(内海愛子, 高橋哲哉, 徐京植編)

世界人権宣言大阪連絡会議ニュース 216(世界人権宣言大阪連絡会議刊, 2000.8)

本の紹介 『現代の法と人権』(高野眞澄著)

同朋大学佛教文化研究所紀要 第19号(同朋大学佛教文化研究所刊, 2000.7)

一向一揆と伊勢国における被差別部落の成立 教行寺文書を中心として 和田勉

中世末期の聖と寺院社会 近世賤民の起源によせて 吉田徳夫

同和教育 第459号(全国同和教育研究協議会編, 2000.6): 300円

2000年度全同教研究課題

2000年度事業計画

人権文化を拓く42 ドグマからの脱却を! 熊本理抄

同和教育 第460号(全国同和教育研究協議会編, 2000.7): 125円

人権文化を拓く43 部落問題との出会い方 角岡伸彦

同和教育 第461号(全国同和教育研究協議会編, 2000.8): 125円

地域を教材化することでみえてくること 阿部秀美

人権文化を拓く44 猪飼野発25時 原像 牧田清

同和教育 第462号(全国同和教育研究協議会編, 2000.9): 125円

就職差別事件を取り組んで 1995年度~97年のとりくみ 岸本隆巳

人権文化を拓く45 ヤマトウのなかの沖縄 仲間恵子

「同和」推進フォーラム 32(真宗大谷派同和推進本部刊, 2000.6)

ミュージアム訪問 佐喜眞美術館

新着ビデオ

「ドキュメンタリー 結婚」(信越放送製作) / 「いちばん近くに 在日外国人 人権啓発アニメ」(KMJ研究センター制作) / 「私も西成のまちで生きたい!」(大阪市立西成障害者会館, ポレポレ作業所他制作) / 「住井すゑ 九十歳の間宣言」(イメージサテライト制作) / 「『人権教育のための国連10年』と同和教育」(大阪人権博物館制作)

「同和はこわい考」通信 144(藤田敬一刊, 2000.6.16) 結婚をめぐる一女性の相談にのって 石原英雄

「同和はこわい考」通信 145(藤田敬一刊, 2000.8.12) 第17回部落問題全国交流会 人間と差別をめぐる 講師紹介, 分科会報告要旨

「同和はこわい考」通信 146(藤田敬一刊, 2000.9.8) A子さんと石原英雄さんとの往復メールを拝見して A子さんへ 福田典子

最近読んだ本から 『詩人 光晴自伝』(金子光晴著)

同和问题研究 第22号(大阪市立大学同和问题研究会刊, 2000.3)

同和问题研究室から人権問題研究センターへ 野口道彦 障害児の権利 米沢広一

鈴鹿市の流言と外国人差別 野口道彦

周縁から中心へ ある被差別部落における女性たちの住環境整備運動をめぐる 齋藤直子

東北アジア人権教育トレーニングワークショップへの日本からのカウンターレポートについて 鍋島祥郎

Human Rights Education in Japanese School System Y

oshiro Nabeshima, Mariko Akuzawa, Shinichi Hayashi, Kona Park

日本の学校教育制度における人権教育 東北アジア人権教育トレーニングワークショップへのカウンターレポート 鍋島祥郎, 阿久澤真理子, 林伸一, 朴君愛

奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要 第7号（奈良県立同和問題関係史料センター編, 奈良県教育委員会刊, 2000.3）

近世西本願寺教団における「部落寺院」観の変容 三業惑乱期の大和の「部落寺院」の動向をめぐって 奥本武裕 大正期の町村合併と部落問題 奈良県南葛城郡大正村分離運動を中心に 井岡康時

穢多村訴願による村方騒動への新撰組介入事件の顛末 吉田栄治郎

地域の声聞師研究一試論 中世法隆寺辺の声聞師から山村雅史

幕末・明治初期の巡在座頭に関するノート 中川みゆき

はらっぱ 198（子ども情報研究センター刊, 2000.7）：700円

子どもの人権オンブズパーソン1年の活動を振り返って 野澤正子

そらちのたわごと 熊谷そら知

ティーンズ・メッセージfromはらっぱ61 校則なんとかしたいねん！ かわにし子どもの人権フォーラム

私の本棚

『友だちは無駄である』（佐野洋子著）／『愛をこめいのち見つめて』（柳澤桂子著）

忘れられないことば4 鈴木祥蔵

はらっぱ 199（子ども情報研究センター刊, 2000.8）：700円

子どもの虐待 ト라우マと心理的ケア 西澤哲

夜間保育、長時間保育の子どもへの影響と今後の課題 安梅勅江

ティーンズ・メッセージfromはらっぱ62 子どもが受ける子ども電話 MIEチャイルドライン

忘れられないことば5 鈴木祥蔵

家族の社会的な研究から見た子育て 黒川衣代

私の本棚

『女が40代にしておくこと』（下重暁子著）／『版画のはらうた』（くどうなおこ詩, ぼてはまたかし画）

はらっぱ 200（子ども情報研究センター刊, 2000.9）：700円

鈴木祥蔵所長退任記念講演 悲憤の山脈の裾野に立って

こども時評 「児童虐待防止法」の展望 浜田雄久

そらちのたわごと くまがいそらち

ティーンズ・メッセージfromはらっぱ63 世界のフリースクールに出会った！ 渡邊広史, 小池瑞穂, 信田風馬, 石井志昂

保育・ゆめ・未来 人権の心を育てる保育の土台作り 事業加配の取り組み 茨木市立道祖本保育所

忘れられないことば6 鈴木祥蔵

子どもたちの現在6 学校外の学び インフォーマルな出会いの時空間を豊かにする 尾崎公子

私の本棚

『今なぜカネミ油症か』（止めよう！ダイオキシン汚染・関東ネットワーク編）／『萌木の国』（今森光彦著）

ヒューマン・アルカディア vol.15（福岡県人権啓発情報センター刊, 2000.9）

新規購入図書を紹介

『「学校」が教えてくれたこと』（山田洋次著）／

『あした元気になるあれ』（松村智広著）／『だから、あなたも生きぬいて』（大平光代著）

ヒューマンライツ 第148号（部落解放・人権研究所刊, 2000.7）：525円

図書紹介 『北村兼子 炎のジャーナリスト』（大谷渡著）

日本女性史上忘れてはならない人物 小山仁示

今月のおすすめ

『ある「超特Q」障害者の記録』（村田実遺稿集編集委員会編）／『オランダモデル 制度疲労なき成熟社会』（長坂寿久著）／『コリアンタウンの民族誌 ハワイ・L.A・生野』（原尻英樹著）／『水俣市民は水俣病にどう向き合ったか』（「私にとっての水俣病」編集委員会編）／『親子不全 = キレない 子どもの育て方』（水島広子著）

ヒューマンライツ 第149号（部落解放・人権研究所刊, 2000.8）：525円

図書紹介 『脳死・臓器移植拒否宣言』（山口研一郎・桑山雄次著） 福本英子

今月のおすすめ

『生きて、ふたたび 隔離55年 ハンセン病者半生の軌跡』（国本衛著）／『民俗の知 の系譜 近代日本の民俗文化』（川村邦光著）／『科学事件』（柴田鉄治著）／『親子ストレス 少子社会の「育ちと育て」を考える』（汐見稔幸著）／『光州事件で読む現代韓国』（真鍋祐子著）

ヒューマンライツ 第150号（部落解放・人権研究所刊, 2000.9）：525円

図書紹介 『ウォッチ！規約人権委員会』（国際人権NGOネットワーク編） 阿部浩己

今週のおすすめ

『ふだんの授業からつくる総合学習 園田流教師ka業のたのしみ方』(園田雅春著) / 『風を読む 水に書く マイノリティ文学論』(川村湊著) / 『強制された健康 日本ファシズム下の生命と身体』(藤野豊著) / 『社会的ジレンマ「環境破壊」から「いじめ」まで』(山岸俊男著) / 『さよなら エルマおばあさん』(大塚敦子写真・文)

ひょうご部落解放 94号(兵庫部落解放研究所刊, 2000.7): 700円

特集 新たな研究のあり方を求めて

座談会 調査・歴史研究の新たな地平を 領家穰・安達五男・中尾健次・安保則夫 / 『兵庫県同和教育関係史料集』追跡調査を開始して 高木伸夫 / 新しい調査の地平を求めて 日野謙一

解放運動の中の女性4, 5 皇甫康子

無関心層の分析こそ必要 兵庫県人権啓発協会『県民の人権意識』を分析する 領家穰

映画評 「アメリカン・ヒストリーX」(トニー・ケイ監督) 萩原弘子

書評 『古文書返却の旅』(網野善彦著) 高木伸夫

新聞記事から あなたならどう読む 新聞投稿「見るに堪えぬ牛の半身宙ぶり」パート2

部落 第663号(部落問題研究所刊, 2000.7): 525円

特集 今後の運動を考える

座談会 地域でどう運動を展開していくのか 新井直樹, 丹波正史, 前田武, 中島純男, 奥山峰夫 / 新たな一歩に夢のせて、「介護センター」開設 津山市のいつまでも「同和・部落」でない運動 末永弘之 / 大阪府「同和実態等調査」を実施 同和地区を未来永劫に残す画策 村橋端

子ども・文化・人権をめぐるパラダイムの転換 「ちびくるサンボ」問題が提起すること 棚橋美代子, 杉尾敏明

乱脈極まりない高知県の同和行政にメス 焦げつき必至! 26億円のヤミ融資含む公的融資問題と真相究明の動き 西村導郎

各地からの通信 広島・県高同教が未公認団体に 重岡式典 / 福岡・「同和」教育のエンディングテーマ 植山光朗 人間に光を 部落問題解決へのあしどり4 縮図 東上高志 歴史小説 やき山村ご一新物語16 平井清隆

ホントに本当! 虚構理論を斬る4 部落民とは部落差別を受ける可能性のある人である? 成澤榮壽

わが作品を語る 『遠い声近い声 耳の神秘・聴覚障害の周辺』 黒川美富子

卒寿を越えた作家の情熱 岩倉政治『第五番目の階級』 秦重雄

本棚 『国境を超える人権 21世紀人権のフロンティア』(碓井敏正著) 八木英二

部落 第664号(部落問題研究所刊, 2000.7): 840円

特集 女性と人権

女性の人権と日本国憲法 「こればかりは自分のもの」 米田佐代子 / 労働法の改定と女性 坂本福子 / 労働現場における女性の人権 中嶋晴代 / ポルノから目をそらす自由を 田中早苗 / 現代の少女売買春 大石仁美 / 「従軍慰安婦」問題と女性の人権 寺沢勝子 / 「21世紀に男女平等・開発・平和を」 「女性2000年」 国連特別総会に参加して 平野恵美子 / 資料 北京宣言及び行動綱領, 女性差別撤廃条約の選択議定書, 人権擁護推進審議会34・35・37回会議議事録 各種人権に関するヒアリング, 教育勅語, 教育勅語等排除に関する決議・教育勅語等の失効確認に関する決議, 教育基本法, 公正な世界秩序のための10の基本原則(ハーグ宣言)

部落 第665号(部落問題研究所刊, 2000.8): 525円

特集 「ケガレ論」と歴史

ケガレ意識と部落差別 尾川昌法 / 記紀神話のケガレ観とその成立について 神野清一 / 最近のケガレ論と歴史学習をめぐる 北尾悟 / 穢れと部落差別 小谷汪之著『穢れと規範』にふれて 菅木一成 / 神奈川県におけるケガレ問題 森岡忠生

感動と共感を呼んだ「人権を映画で観る」上映会 丹波正史

「人権条例」阻止のたたかいは「同和行政・同和教育」終結の絶好の機会 兵庫 前田武

お白洲で「同和」教育を裁く 福岡県同教にたいする住民訴訟 植山光朗

ホントに本当! 虚構理論を斬る5 ケガレ意識(観念)が部落差別の本質である? 尾川昌法

文芸の散歩道 『ルポ 現代の被差別部落』(朝日新聞長野支局編) 「部落民あばき」の罪悪 桑原律

本棚

『外国人労働者問題の政策と法』(村下博著) 澤野義一 / 『ヒューマンサービスの教育』(八木英二著) 我妻秀範

人間に光を 部落問題解決へのあしどり5 課題 東上高志 やき山村ご一新物語17 平井清隆

部落 第666号(部落問題研究所刊, 2000.9): 525円

特集 「17歳問題」と高校教育

座談会 「17歳問題」と高校教育 高校生の自主活動

の意義 石川諭紀子, 佐藤敏正, 澤野重男, 曾田康載, 梅田修

教育基本法「改正」をめぐる動向とその批判・課題 室井修

子どもから、学校から、地域から、草の根の教育改革を「ともに考える会」の教育改革提案によせて 三上昭彦
同和教「解散」の決定と「人権教育」をめぐるあらたな動き 谷口幸男

ホントに本当！虚構理論を斬る6 部落差別が現存するかぎり同和行政は積極的に推進されなければならない？ 奥山峰夫

文芸の散歩道 西鶴作品に著された野非人たち 『日本永代蔵』より 小原亨

本棚 『「荒れ」「学級崩壊」を克服するには』(大川克人著) 松浦克之

人間に光を 部落問題解決へのあしどり6 運動 東上高志
やき山村ご一新物語18 平井清隆

部落解放 471号 (解放出版社刊, 2000.7) : 630円

特集 地域の教育力を高めるために

地域教育協議会の設置を 家庭・学校・地域が協働する教育コミュニティづくり 池田寛 / 夢にチャレンジしつづける地域に 進路保障を見つめなおして 部落解放同盟筑紫地区協議会京町支部「共に育つ会」 / 壁とりはらって夢 異校種間連携と地域ぐるみの教育づくり 大阪・高槻市城南中学校区ふれ愛教育推進委員会 / 出会いと交流、学ぶ楽しさを大切に 人権子育てネットワークづくり 奈良市立都南保育園・奈良市立東市小学校

石原都知事の差別発言を批判する

「三国人」はどう使われてきたか 藤野豊 / 東京都の「来日外国人」や「不法滞在者」による犯罪が増大かつ凶悪化しているというウソ 中島真一郎

水平社博物館特別展「中上健次の世界 路地から世界へ」を見て 山崎泰

新旧証拠の総合評価と事実調べの実現を 狭山第2次再審棄却決定に対する異議申立補充書について 中山武敏

嘘はつきたくない 仲間とともに結婚差別を乗り越えよう 堀田庄三

インドが私にくれたもの 山田陽子

近代の奈落を歩く9 渦巻く大都市部落(上) 京都・部落解放運動の光と影 宮崎学

人権いろいろ47 日本でも人種差別禁止法を 福島瑞穂

有田芳生の情報おもちゃ箱 オウムの本質は変わらない

太鼓の音67 少年の夢をつぶすな 川元祥一

地の果て・北極圏に掃き寄せられる汚染物質 豊崎博光

IMADRアップデート イランガニーの場合 藤岡美恵子
映像フリースペース アメリカ映画「サイダーハウス・ルール」(監督ラッセ・ハルストレム) 白井佳夫

東京音楽通信 大道芸人としての潔さ 上々颱風 藤田正
やっぱり今この本を2 『穴』(ルイス・サッカー作/幸田敦子訳) 今江祥智

本の紹介

『藤村の「破戒」のモデル 大江磯吉とその時代』(東栄蔵著) / 『み足の跡をたいて キング牧師における信仰のかたち』(梶原寿著) / 『脱戦争論 小林よしのりとの裁判を経て』(上杉聡編著) / 『沖繩の鳥人 飛びアンリー』(儀間比呂志著)

部落解放 472号 (解放出版社刊, 2000.7) : 1,050円

部落解放同盟第57回全国大会報告書

部落解放 473号 (解放出版社刊, 2000.8) : 630円

特集 21世紀の人権啓発

揺れ動く「個人」を主体にした取り組みを 人権・人権学習・生涯学習がもつイメージの再検討から 笹川孝一 / 一人ひとりが主人公 21世紀の人権啓発と行動スタイル 白井俊一 / 市民参加の条例づくり 「川崎市子ども権利条例案」の取り組みから 山崎信喜 / 人権文化あふれる社会を 「国連人権教育の10年」後期5カ年と「人権教育・啓発法」の制定 友永健三

部落に生きる仕事1 大阪に残る“三味線皮づくり” 三宅都子

柳川流三味線と猫皮製造技術 津田道子

近代の奈落を歩く10 渦巻く大都市部落(中) 京都・部落解放運動の光と影 宮崎学

在留外国人に完全な地方参政権を 外国人参政権法案をめぐって 仲原良二

資料 「独身証明書」の活用を求めた通産省の通知

「外人」という言葉 藤井誠二

人権いろいろ48 ちょっと待って、少年法改悪 福島瑞穂

有田芳生の情報おもちゃ箱 17歳の凶行

太鼓の音68 真の自由を考えよう 川元祥一

環境レイシズム 社会を読み解くキーワード 本田雅和

IMADRアップデート 北京からニューヨーク、そして南アフリカへ 届け！マイノリティ女性の声

映像フリースペース 中国映画「あの子を探して」(チャン・イーモウ監督) 白井佳夫

東京音楽通信 平井堅「黒人ボーカル時代」の幕開け 藤田正

やっぱり今この本を3 『なあくんとちいさなヨット』

(神沢利子作・山内ふじ江絵) 山下明生

部落解放 474号 (解放出版社刊, 2000.8) : 1,050円

第26回部落解放文学賞入選発表

部落解放 475号(解放出版社刊,2000.9):630円

特集 あいつぐ差別事件

慶応大学生による差別脅迫事件の真相と今後の闘い
藤本忠義/「同和の名刺に支店長はビビる」と差別講演
JA鳥取県信連主催の金融担当者研修会における講師差別言動事件 原満義/「部落出身だから、付き合うな」滋賀県・近江温泉病院院長差別発言事件 丸本千悟/「握り飯は食えない」栃木県大平町差別発言事件から学ぶ 和田献一

女性の人身売買撤廃と複合差別を訴えて 2000年女性会議での反差別国際運動の取り組み 藤岡美恵子

人権いろいろ49 有田さんに答える 福島瑞穂

有田芳生の情報おもちゃ箱 バブルと日本人の精神

太鼓の音69 部落民の存在 川元祥一

報道されないドミニカ移民の真実 高橋幸春

IMADRアップデート 日本の人種差別? 国連での日本政府報告書審査

映像フリースペース アメリカ映画「ミュージック・オブ・ハート」(ウェス・クレイヴン監督) 白井佳夫

東京音楽通信 サミットと拮抗した沖縄の音楽 藤田正
やっぱり今この本を4 『車のいろは空のいろ3 星のタクシー』(あまんきみこ作・北田卓史絵) 今江祥智

本の紹介

『きつねのぼんおどり』(山下明生・文 宇野亜喜良・画) / 『隣保事業の思想と実践 姫井伊介と労道社』(布引敏雄著)

近代の奈落を歩く11 渦巻く大都市部落(下) 京都・部落解放運動の光と影 宮崎学

差別によって構築された近代警察(上) 警察機構から部落が切り捨てられる過程 川元祥一

座談会 本当の復興はこれから 阪神・淡路大震災から5年を経過して 駒田幸光, 平林照夫, 岸田章子, 中西豊美, 津田時廣, 森本豊, 杉岡康次郎

部落解放 476号(解放出版社刊,2000.10):630円

特集 インターネットと人権運動

座談会 ネットの中の解放運動 田畑重志, 淵本稔, 北口末広/人権運動にとってのインターネットの可能性
高木寛/市民運動のメディアとしてのインターネット JCA-NETの活動のなかから 印鑰智哉

人権いろいろ50 台湾と原子力発電所 福島瑞穂

有田芳生の情報おもちゃ箱 福島さんに反論する

太鼓の音70 文明としての部落 川元祥一

「暗黙の」規制の時代 中森明夫

IMADRアップデート拡大版 人権小委員会が世系による差

別に関する決議を採択、部落問題にも言及

映像フリースペース 「ざわざわ下北沢」(市川準監督) 白井佳夫

東京音楽通信 忌野清志郎が歌う「君が代」 藤田正
やっぱり今この本を5 『モンシル姉さん』(権正生著, 卞記子訳, 朴民宜装挿画) 山下明生

本の紹介

『部落問題のパラダイム転換』(野口道彦著) / 『野洲の部落史 通史編・史料編』(野洲町部落史編さん委員会・京都部落史研究所編)

封筒・脅迫状は無実を示している 狭山事件・齋藤第二鑑定について 横田雄一

人権文化を築くために 各地の新設研究所紹介 香川人権研究所/愛知部落解放・人権研究会/福岡県部落解放・人権研究所

近代の奈落を歩く12 歴史に呼び出された男たち(上)

松田喜一, 泉野利喜蔵, 栗須七郎, そして大阪の水平 運動 宮崎学

差別に対する怒りふたたび! ハンセン病国賠訴訟支援プロジェクトの立ち上げ 丸岡康一

部落に生きる仕事2 雪駄づくりにかけた人生 愛知県津島市に残る雪駄づくり 三宅都子

部落解放運動情報 47・48号([部落解放運動・情報]編集委員会刊,2000.7):300円

こんな本がでています 『庶民の発見』(宮本常一著)

部落解放運動情報 49号([部落解放運動・情報]編集委員会刊,2000.8):300円

こんな本がでています 『陰陽師 飛天ノ巻』(夢枕獏著)

部落解放運動情報 50号([部落解放運動・情報]編集委員会刊,2000.9):300円

こんな本がでています 『同性愛者として coming outの軌跡』(高取昌二著)

部落解放研究 第134号(部落解放・人権研究所刊,2000.6):1,000円

特集 「学力保障」について考える

総合的な学習の時間の意義と課題 安彦忠彦/「学力低下」を考える これからの学力保障のために 高田一宏/インタビュー 学力問題と教育改革をどうとらえるか 苅谷剛彦/インタビューアー長尾彰夫/すきやねん大正 I love meからはじめよう 岸本淳/戸波ハートタイム 村岡治/産業社会と人間 グローバル・スタディーズ 伯太高校の学校改革実践 野田淳/松原高校総合学科の今 二期生のアンケートで見えてきたもの 易寿也

書評

『のぞいてみよう!今の小学校 変貌する教室のエスノグラフィー』(志水宏吉編著) 今津孝次郎 / 『大阪の部落史 第7巻(史料編現代1)』(大阪の部落史委員会編) 小山仁示 / 『生涯学習から地域教育改革へ』(相庭和彦著) 赤尾勝巳 / 『被差別部落史の研究 移行期を中心にして』(山本尚友著) 亀岡哲也

部落解放研究 第135号(部落解放・人権研究所刊, 2000.8): 1,000円

特集 近代部落史研究の現状と課題

都市「下層社会」と部落問題についての成果と課題
今西一 / 近代「国民国家」と差別 黒川みどり

史料紹介 日中戦争期の差別事件史料(続) 朝治武
地方自治体における子どもの人権擁護システムの構築
川西市子どもの人権オンブズパーソン制度を例として
住友剛

差別に関わる心理的メカニズム 益田圭
書評

『日本の経済格差』(橋木俊詔著) 野口道彦 / 『学校文化とジェンダー』(木村涼子著) 中島通子 / 『アイデンティティ・ポリティクスを超えて』(金泰泳著) 谷富夫 / 『人びとが語る暮らしの世界 野洲の部落史』(野洲町部落史編さん委員会, 反差別国際連帯解放研究所しが編) 政岡伸洋

部落解放史ふくおか 第98号(福岡部落史研究会刊, 2000.6): 1,050円

特集 部落史におけるテキストクリティーク

対談 水平社宣言を読み解く 朝治武, 小正路淑泰, 竹森健二郎 / 「樊【かい】夢物語」の構造と評価 石瀧豊美

部落史研究がより面白く、部落解放史研究であるために
田原行人

「部落史発見 部落史学習の新しい展開をめざして」を作成して 松永唯道

絶対的穢れ観の形成について2 遠藤和夫
図書の紹介

ブックレット『子どもたちの表現を拓く』(福岡部落史研究会編)を読んで 杉村孝夫 / 『差別と戦争』(松浦勉・渡辺かよ子編) 新谷恭明

部落解放ひろしま 第47号(部落解放同盟広島県連合会出版局刊, 2000.7): 1,000円

特集 戦後補償は今

戦後補償を巡る立法の動きと現況 西野瑠美子 / 西松裁判の闘い 山田延廣 / ユーゴの人々から学ぶこと 都築寿美枝 / 「『日の丸』に突き刺した恨みの剣は抜か

ない」 佐方満智子 / 関釜裁判の支援にかかわって 土井桂子

「部落解放基本法」への向かうべき道すじ 小森龍邦
部落解放ひろしま 第48号(部落解放同盟広島県連合会出版局刊, 2000.9): 1,000円

特集 高齢社会と被差別部落

部落の高齢者の暮らし 介護保険制度の現状から
瀧野欣弥 / 介護保険と部落の福祉 新谷百合枝 / これからの県連の高齢者対策 立石清美 / 支部で行なう高齢者のケア 藤坂真治 / 「解放運動に定年はない」 瀬戸真由美

「同和教育基底論」の真義に戻る 小森龍邦

月刊部落問題 283(兵庫部落問題研究所刊, 2000.7): 350円

特集 松阪商業高校校長自殺の真相

「解同」と一体化の県行政、責任は重大 前島格也 / 同和偏向教育をただし、同和教育の廃止をめざす 矢田紹生 / 「学校長」自殺真相究明現地調査に参加して 前田武 / 大胆に積極的に真実を多くの市民へ! 岸本守

部落解放運動の転換点におけるいくつかの理論問題を検討する2 森元憲昭

アイヌ民族をめぐる諸問題2 加藤西郷

月刊部落問題 284(兵庫部落問題研究所刊, 2000.8): 350円

特集 「人権条例」阻止のたたかい

「三木市人権尊重のまちづくり条例」について 大眉均 / 三木市における「人権条例」阻止のたたかい 前田武

西二郎地区におけるまちづくり情報の発信について 西二郎地区まちづくり協議会

「部落解放」の看板のない共同型運動から展望する21世紀 全解連神戸市協第30回定期大会の報告 森元憲昭

アイヌ民族をめぐる諸問題3 加藤西郷

月刊部落問題 285(兵庫部落問題研究所刊, 2000.9): 350円

東大阪市における同和事業の終結に向けての意見書 東大阪市同和行政研究会

部落問題 調査と研究 147(岡山部落問題研究所刊, 2000.8): 650円

大胆に積極的に真実を多くの市民へ! 松阪商業高校校長自殺問題全国現地調査団に参加して 岸本守

「解放教育」に見切りをつけ、文部省路線をひた走る広島県教委 父母・県民の共同を広げ、当たり前前教育を取り戻す 今谷賢二

岡山県人権政策審議会答申の問題点 石岡克美
岡山県人権政策審議会答申を読んで 人権とは何か 小畑隆資

命と人権を侵すサービス残業の根絶めざし 藤田弘起
介護保険と高齢者の人権 平井昭夫
秋田雨雀『骸骨の舞跳』『国境の夜』の世界 大正期の文学に現れた人間観 6 川端俊英
忘れられた農民一揆2 明治四年県南四郡騒動始末記 清野忠昭

部落問題研究 部落問題研究所紀要 151(部落問題研究所刊, 2000.4): 1,111円

京都における水平社の成立 水平社創立をめぐる7 鈴木良

長州藩蔵屋敷と渡辺村 塚田孝

「人種関係」の社会学から「人種関係」研究へ イギリスにおける「人種」「人種主義」「人種関係」の諸相 鮫島京一

労働市場における性別分業 戦後の変化とその要因 真鍋倫子

部落問題研究 部落問題研究所紀要 152(部落問題研究所刊, 2000.6): 2,187円

第37回部落問題研究者全国集会報告

人権擁護推進審議会「答申」の検討 人権論の観点から 渡辺久丸/精神活動の自由と教育実践 内心の自由を中心にして 吉田一郎/部落問題の歴史的研究の到達点と今後の課題 前近代史分野 大森久雄/社会問題追及の論理の検討 セクシュアル・ハラスメント概念の混乱がもたらすもの 新谷一幸/人権擁護推進審議会「答申」の多角的検討 村下博/人権擁護推進審議会「答申」の検討 行政主導の人権教育・啓発の危険性 梅田修/人権擁護推進審議会「答申」の検討 社会教育・啓発の観点から 生田周二/住

井すゑの出发点 秦重雄/映画になった「橋のない川」 渡邊巳三郎

部落問題研究 部落問題研究所紀要 153(部落問題研究所刊, 2000.9): 1,111円

部落問題の歴史的研究の到達点と今後の課題 近現代史分野 竹永三男

社会運動としての非営利・協同セクターの役割 最終段階をむかえた部落問題の歴史的研究の到達点にもふれながら 丹波史紀

部落問題論における主観的理論の問題性 現状・行政研究の動向にかかわって 石倉康次

書評

『外国人労働者問題の政策と法』(村下博著) 澤野義一/『日本近代教育と差別 部落問題の教育史的研究』(安川寿之輔編著) 梅田修

本願寺史料研究所報 25号(本願寺史料研究所刊, 2000.7)

雑賀一向衆列名史料について 武内善信

民権協ニュース 117(在日韓国民主人権協会刊, 2000.9): 300円

新刊書案内 『ひとりでもやる、ひとりでもやめる』(小田実著)

Rights ライツ Vol.15(鳥取市人権情報センター刊, 2000.8)

今月のいちおし! 『在日コリアンの胸のうち 日本人にも韓国人にもわからない』(辛淑玉著)

Rights ライツ Vol.16(鳥取市人権情報センター刊, 2000.9)

本の紹介 『人権のまちづくり 参加・交流・パートナーシップ』(部落解放・人権研究所編)

今月のいちおし! 『「女性学」キーワード』(岩男寿美子, 加藤千恵編)

新聞書評欄等 (2000年7月~9月受入)

~各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました~

解放新聞 第1974号(解放新聞社刊, 2000.6.26): 80円

今週の一冊 『よみがえる"万葉歌人"明石海人』(荒波力著)

山口公博が読む今月の本

『ベトナムの微笑み』(樋口健夫著)/『芸人魂』(マルセ太郎著)/『新訂梁塵秘抄』(佐佐木信綱校訂)

図書紹介 『ハンセン病療養所隔離の90年』(写真太田順

一, 全国ハンセン病療養所入所者協議会編) 小島伸豊

解放新聞 第1975号(解放新聞社刊, 2000.7.3): 120円

今週の一冊 『家西悟全記録 薬害エイズと闘う』(家西悟編著)

映画 『ザ・ハリケーン』(ノーマン・ジュイソン監督)

解放新聞 第1976号(解放新聞社刊, 2000.7.10): 80円

今週の一冊 『「子どもの目」からの発想』(河合隼雄著)

Video 「梟の城」(篠田正浩監督) 川崎彰彦

解放新聞 第1977号（解放新聞社刊，2000.7.17）：80円
今週の一冊 『メッセージ・ソング「イマジン」から「君が代」まで』 藤田正

解放新聞 第1979号（解放新聞社刊，2000.7.31）：80円
今週の一冊 『地球を救うエネルギー・メニュー』（西尾 漢著）

山口公博が読む今月の本

『ドキュメント屠場』（鎌田慧著）／『悪と往生 親鸞を裏切る「歎異抄」』（山折哲雄著）／『潤一郎ラビリンス』（千葉俊二編）

解放新聞 第1980号（解放新聞社刊，2000.8.7）：120円
今週の一冊 『日本の現代 日本の歴史9』（鹿野政直著）
Video 「川の流に草は青々」（候孝賢監督）川崎彰彦

解放新聞 第1981号（解放新聞社刊，2000.8.14）：80円
今週の一冊 『アメリカの家族』（岡田光世著）

解放新聞 第1982号（解放新聞社刊，2000.8.21）：80円
今週の一冊 『花岡1945年・夏』（野添憲治著，貝原浩画）

解放新聞 第1983号（解放新聞社刊，2000.8.28）：80円
今週の一冊 『虹の谷の五月』（船戸与一著）

解放新聞 第1984号（解放新聞社刊，2000.9.4）：120円
今週の一冊 『メディア・リテラシー 教育をつくる』（森田英嗣編）

Video 「雨あがる」（小泉堯史監督）川崎彰彦

解放新聞 第1985号（解放新聞社刊，2000.9.11）：80円
山口公博が読む今月の本

『現代社会の理論 情報化・消費化社会の現在と未来』（見田宗介著）／『近代の労働観』（今村仁司著）／『蕨の家』（上野朱著）

解放新聞 第1986号（解放新聞社刊，2000.9.18）：80円
今週の一冊 『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』（遙洋子著）

解放新聞 第1987号（解放新聞社刊，2000.9.25）：80円

今週の一冊 『放送禁止歌』（森達也著）

解放新聞 第1988号（解放新聞社刊，2000.10.2）：120円
Video 「四万十川」（恩地日出夫監督）川崎彰彦

今週の一冊 『リアル国家論』（教育史料出版会刊）

解放新聞改進黨 第269号（部落解放同盟改進黨支部刊，2000.5）

私の本棚132 『その食事ではキレる子になる』（鈴木雅子著）岡田一志

解放新聞東京版 第504号（解放新聞社東京支局刊，2000.7.15）：90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 145 三本の人間主義復権のアメリカ映画について考える1 「インサイダー」，「エリン・プロコピッチ」，「ザ・ハリケーン」

連載・下町の皮革産業史2 荒川の皮革産業史を聞く 鎌田慧

解放新聞東京版 第505号（解放新聞社東京支局刊，2000.8.1）：90円

連載・下町の皮革産業史3 荒川の皮革産業史を聞く 鎌田慧

解放新聞東京版 第506号（解放新聞社東京支局刊，2000.8.15）：90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 146 三本の人間主義復権のアメリカ映画について考える2 「インサイダー」，「エリン・プロコピッチ」，「ザ・ハリケーン」

連載・下町の皮革産業史4 荒川の皮革産業史を聞く 鎌田慧

解放新聞東京版 第508号（解放新聞社東京支局刊，2000.9.15）：90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 147 「スリ」（黒木和雄監督）

紫明だより

ホームページを開設しました（<http://www.asahi-net.or.jp/qm8m-ndmt/>）。事務局員がほとんどインターネットの知識がないところから出発したために、慣れない作業の連続でしたがなんとか開設にこじつけました。ホームページ作成は、池内理恵さんにしていただき、大変たすかりました。事務局員だけでは、おそらくホームページを作成することは不可能だったと思います。2週間に1回は更新しなければならないので、これからが大変です。京都は、これから底冷えのする季節に入っていきます。（P）

Memento(メメント)とは、ラテン語で「記憶する」「考える」の命令形です。京都部落問題研究資料センター通信は、部落問題や差別問題についてのさまざまな情報提供をすることから、Mementoと名付けることにしました。